

2018年1月21日（日）メッセージアウトライン 「ねたむほど愛する神」

聖書箇所：出エジプト記20：1～6

タイトル：「ねたむほど愛する神」

テーマ：神の御名の一つである「ねたむ神」について、私たちの心に引き起こされる感情はいかなるものでしょうか。人間にとって否定的かつ決して善とは言えない感情と考えられる「ねたみ」は、神にとっては何なのでしょう。この「ねたむ神」の本質を探ることは、実は一人のクリスチャンの生き方を変えるだけでなく、クリスチャンの共同体である教会をも造り変えるほど重要なものであることを見ていきましょう。

1. 文脈の確認

- ①出エジプトの出来事（モーセをとおしてイスラエルの民にシナイ契約を授与）
 - *神からの祝福とイスラエルの果たすべき責務
 - *モーセの律法を守る者への神の祝福とあわれみ、破る者への呪いと怒り
- ②「ねたむ神」は神の御名の一つである
 - *旧約聖書は、神の本質を神の御名をとおして示している
 - ・アブラハム、イサク、ヤコブの神
 - ・エロヒム
 - ・わたしはあるという方
 - ・「主」ヤハウェ（アドナイ）
- ③神のねたみに関する様々な聖書箇所
 - *民 25:11「わたしはわたしのねたみによってイスラエル人を滅ぼすことをしなかった」
 - *申 4:24「あなたの神、主は焼き尽くす火、ねたむ神」
 - *ヨシュア 24:19「主は聖なる神であり、ねたむ神である」
 - *ゼカリヤ 1:14「わたしはエルサレムとシオンをねたむほど激しく愛した」
 - *I コリ 10:22「それとも、私たちは主のねたみを引き起こそうとするのか」
 - *ヤコブ 4:5「神は私たちのうちに住ませた御霊をねたむほどに慕っておられる」その他
- ④「ねたみ」は神が行動を起こされる動機となるご性質

2. 神のねたみについて

- ①「ねたみ」という表現は擬人化されたもの
- ②「神のねたみ」は、結婚という契約関係の中で表現される

3. 人間のねたみには二つの種類がある

①貪欲から生じるもの

②愛の関係を大切に守りたいという熱心さ——神のねたみと共通する部分

*旧約時代：神はイスラエルの民との契約関係を、神とイスラエルの結婚と考えておられる。偶像礼拝にふけるイスラエルを姦淫の妻とみなしている。

*新約時代：教会はキリストの花嫁として表現されている（エペソ 5:28～32、Ⅱコリ 11：2）

4. イエス・キリストとクリスチャン

①神との関係を具体的に体験できるよう与えられた家族と教会

②具体的に考えてみると...

5. 結論

①神との個人的関係から、神と共同体（教会）との関係に視野を広げることが大切

②キリストの花嫁としてふさわしいものに造り変えられて行く教会（愛して下さる神の愛に応じて）

③ねたむほどの愛で神に愛されている者であることを自覚し、神の「ねたむ」というご性質が私たち一人一人を、また教会を造り変えて下さるものであることを感謝しよう